

第6回 講師: JAF MATE社 編集長 鳥塚 俊洋氏

テーマ: 「編集者の命は“好奇心”」～これから面白そうなこと～

取締役副社長
文責: 横田 郁夫

1月22日、第6回AD塾の講師にJAF MATE編集長、鳥塚俊洋氏をお招きして開催されました。「月刊 JAF Mate」は(一社)日本自動車連盟の会員向け機関紙で、国内の定期刊行物では最大のなんと1150万部を現在発行しているそうです。単純に日本人の約10人に1人が目を通していることになり。その本の編集長ですから、さぞ大変な日々を送っていると思いきや鳥塚氏は淡々とされており、根っからの編集者と思えられ、編集に関わる取組み方を楽しくわかり易くお話し頂きました。学生の頃から、ミニコミ誌に興味を持たれ、本に携わる仕事がしたくて編集会社へ就職されたそうです。編集畑一筋の鳥塚氏はまず編集の面白さをこう説かれました。編集者の基本は「大いなる好奇心」を持つことである。面白いこと、役に立つこと、美味しいこと、美しいこと。全てを人に伝えたい、教えたい、見せてあげたいということを常に考え、何より自分が好奇心旺盛でなければならない。そして伝え方もダイレクトな手法では伝わらず、わかり易い形に加工して興味を喚起させることが編集者の仕事であり、楽しさであると。また紙面を作る上で重要なタイトルの話では、付ける時に最初に付けるか後に付けるかの手法で、両方のメリット、デメリットもお話され、その中でタイトルも然る事乍ら20・30～100文字の短い文章で全体像を要約するリードが大切で、このリードが描ければ全体の構成が出来てくるともお話されました。以前から環境エコロジーや電気自動車に興味があった鳥塚氏は、その専門分野のみならず、受け手の興味を見据えて旅行や食、健康など多岐に渡る分野を紹介していく会員誌そして、本とネットの融合充実性を図っていく業務を担いながら、現場大好き編集長として飛び回っている日々だそうです。今回もあつという間に楽しい時間が過ぎていきました。ありがとうございました。

PS. 弊社ではJAF Mate誌で2つのコーナー「あつたカー対談」「美食同源」をご協力させて頂いております。是非ご一読下さい。



次回は... 第7回 AD塾

日時: 2月19日(火)18:00～20:00

講師: 青森公立大学 教授 佐々木 俊介氏

テーマ: 「地方で生まれている地域づくりの新しい動きとそれらが持つ意味」

閉塞、混迷状況にあるわが国で、かえって地方から従来の国頼り、行政依存から脱した意欲的、自立的な地域づくりが生まれています。ユニークな事例をいくつかご紹介しながら、これからの社会における社会的文化的な意味や可能性をご一緒に考えて行きます。

受講者募集中! >>> 弊社社員までお問合せください。2/15(金)まで受付。

佐々木 俊介氏 プロフィール

東京大学工学部都市工学科卒業、同大学院都市工学専門課程博士課程中途退学。'71年(株)三菱総合研究所入社。地域計画部長、社会公共本部副本部長、研究理事歴任。'03年青森公立大学教授就任。同経営経済学部地域みらい学科、大学院経営経済学研究科地域専修担当。法政大学大学院政策創造研究科非常勤講師。現在に至る。

この間、「東京都産業ビジョン」「テクノポリス構想」「東北インテリジェント・コスモス構想」「シンクネット2.1」などの計画策定、事業推進に従事。現在、「青森県地球温暖化対策推進協議会」「青森市景観審議会」会長、「東北ブロックの社会資本重点整備方針に関する有識者懇談会」委員、各地の地域づくり団体のアドバイザーなど。共著書に「東京照射学」、「江戸時代人づくり風土記」「地域からの変革と地域政策」「公益学を学ぶ人のために」他。



2013
vol.009

～プロデューサーへの道～

夜明けの Entertainment 第15回



CEO代表取締役会長
檜垣 俊幸

■個性化の時代

時代に活力をつける使命を負う私達、エンターテインメント・プロデューサーはポジティブ・マインドを持ち続けなければならない。その為には豊かな経験を重ねる事が大切です。自分以外の異なる価値観を理解しそのルーツを探る異文化探索に興味を持つ事が大切です。それは、自分を大切に、他者の存在を尊敬し、敬愛する事でもあります。2013年から成人企業となる新生 adproject は、ポジティブ社会創造に向かいます。その為のコミュニケーションやリレーション・シップを基軸としたポストマーケティング作業を提唱していきます。

その為には、各自の個性化を大切に、プラスの才能を見つけ出す事が基本となり、その事に時間を費やす喜びを実感する事が大切です。個性化である事は、お互いの存在を大切に、違いがあることの喜びと存在に感謝する事でもあります。違って当たり前の世界を画一化し、フォーマルな組織論で塗りつぶし、物理的な成長をなしてきたのが、戦後からこれまでの日本であり、今日の若い世代が発展させるであろう世界は、個性的である喜びを実感できる、精神的な成長が期待されます。

ポジティブ・マインドは、常に前向きなベクトルを持ち、プラス志向のコミュニケーションをもたらし、様々な価値をコラボレーションした感動があります。さらに、これまでのコンセプトとは異なる、多重でマルチなコミュニケーションを創造する、新しい価値理論を持たなければなりません。

■新時代のコミュニケーション

その為には、新コミュニケーション・システム網の確立が急務です。そして、マグネット・コミュニケーションのコンセプトでもある、異文化交流ポジティブ・ロジックを身に付ける事が大切です。それには、物



世界のモデル

モデル: Nadya / Height:168cm B:77 W:58 H:88
事務所: ARTRICK ENTERTAINMENT (アートリック) <http://artrick.com>

adtainとは、adproject と entertain が融合した「おもてなし」のトピックス誌

まね、見習い、技盗み、書生制度など、物事に投じる精神が必要です。ポジティブ・マインドは、他者を楽しむ技であり、それを感じて、自己実現を感じる事です。解りやすく言うなら、芸人気質を身に付ける事でもあります。マーケティング感性を身に付け、ポジティブ・コミュニケーション手法を身に付けたコンセプト・ワークを可能にする事が、新コミュニケーションなのです。この提案こそが、真のクライアント志向の有り方でもあります。

■普通の暮らしじゃ育たない感性 私達は普通の人間であってはけません。普通の人間が憧れる、ライフ・アーティストである事が大切です。才能の特化した集団である必要があります。人にエスプリを与えられる事が、職業的宿命なのです。どこにでもいるプロデューサー集団ではなく、二人といたない才能を持ったプロデューサーであることがadprojectのプロジェクトコンセプトだからです。

■もう一人の自分を育てよ! その為にはこれまでの延長線で生きるのではなく、新しい自分を誕生させ、もう一人の自分を育てる事をお勧めします。それを、暮らしのバージョン・アップと呼びます。

世界の彫刻物

どんなお話してるの?

～モスクワ～

Andrey Aseriantz 作
緑の木の下で二人は? いや、二匹は何を話してるのか気になりますね。作家のエスプリに、洒落に脱帽です。



第9回

たまには休まれたらいかがでしょう。

隅田川七福神めぐり

(ご開帳は元旦から7日まで)

1月6日早朝、毎年年初どこかの七福神めぐりをしようと仲間6人(3夫婦)で決めて3年目。谷中七福神、深川七福神に続き、今年は隅田川七福神めぐりに。電車を乗り継ぎ、押上駅着。予想に反し、スカイツリーが混んでいなかった(30分待ち)ので、急遽、スカイツリー(634m)へ。皆さま、1度は行ってみる価値あり! さて、色紙を買ってご集印集めをしながら、いざ七福神めぐりへ出発!!



恵比寿神・大国神 (三囲神社)



布袋尊 (弘福寺)



弁財天 (長命寺)



福禄寿尊 (百花園)



寿老人 (白髭神社)



毘沙門天 (多聞寺)

ご集印



COO代表取締役社長
岩澤 二三夫

江戸文化年間に始まった隅田川七福神は、七福神めぐりの始まりとして長い間、善男善女のお正月の楽しみになってきたそうです。歩く距離は4kmもなく、途中で美味しい蕎麦屋に入り、いっぱいひっかけたほろ酔い気分です。道すがら、桜餅・言問団子を食しながら。。。いやあ、天気も良く最高でした!

皆さんもお正月の七福神めぐりを始められてはいかがでしょうか?



百花園から見えるスカイツリー



コラ

人生は90年・・・本当?

このコラムを書くとして、デスクに向かったら ふっとTVのアナウンスが耳に入った。「大鵬」が死去したと言う。享年72、早すぎる人生の終焉である。優勝回数32回は歴代1位であり、まさに不世出の大横綱であった。全盛期の40年代には、「巨人」「大鵬」「卵焼き」が子供たちの大好物と言われ、その勝ち負けに一喜一憂し、卵焼きに舌鼓を打っていた。それが当時の当たり前の子供の姿であった。あれから40年が過ぎ、「3丁目の夕日」は高層ビルの陰に隠れ、子供たちは白髪頭のオジさんになった。あの頃は「人生60年」と言われていたが、今では「人生90年」と言われ、日本人の平均年齢は「50歳」になるのも、すぐそこであるという。50歳60歳は「鼻たれ小僧」70歳になってやっとなり前なんて時代になる訳です。



Producer
岩下 日出雄

これはえらい事になりませ! まず体力作り。これは必要です。ソーシャルメディアに対応する柔軟な指先もキープしなくてはなりません。そして、ポジティブシンキングに発想して「楽しい人生」を提案したいと思っています。まあ我々は、そうやって年を重ねてゆくわけですが、昨今の映画や音楽の傾向を見るに付け、感じるがあります。それは大正ネオリズム礼賛と云うか昭和回帰と云うのか、なんだか「昔も良いものが有ったんじゃない」的の心。我が白髪にも心なしが艶が出たような気分です。僕らは、リアルタイムに見たり聞いたりしてた事が今の若い人達には新鮮な事として受け止められているのかもしれない。これから先10年20年後まで、柔軟な思考をキープして、経験に裏付けされた知恵と発想を持った嫌なジジイになりませ! それでは健康のためジョギングに行きませ。

営業本部 第1プロジェクト

東京オートサロン2013

日時：2013年1月11日（金）～1月13日（日）
会場：幕張メッセ（千葉）
種類：制作・運営

Producer
杉本 多佳音



▶ 「伝わる」は嬉しい

興味のない事、自分に関係のない事は、なかなか聞いてもらえない。私自身そうである様に「面白そう!」「なんだらう?」と感じないと、中々「話を聞こう」という気にはなりません。先日「東京オートサロン 2013」というカスタム、チューニングカーの展示会にて、一般社団法人日本自動車連盟（JAF）のブースの制作・運営を担当しました。3日間の期間中、総勢282,659名の車好きの方が参加、802台の車両が展示されました。その中で「来場者に伝えたいこと」つまり「JAF のサービス」をどうやって伝えることができるのか。若い男性が集まるイベントのため、ブースにストーリー性をもたせ、気軽にブースに立ち寄りいただける様考えました。「JAF 活用診断チャート」を制作し、女医さんの格好をしたコンパニオンによるゲーム感覚で出来る YES-NO 診断で、来場者1人1人を3タイプに分けた「JAF 活用法」を提案。密なコミュニケーションをとりながら、JAF のサービスの説明、また最後にタイプ別の「処方箋」を配る、という一連のストーリーをブースで展開しました。みなさんに上手く伝わったかどうかはわかりませんが、「へーそうなんだ!」「知らなかった!」と言っていた来場者の方がとても多く思いました。若い男性のグループが、女医さんの説明を楽しそうに聞いている姿や、通りを歩いている来場者に「女医さんが診断します」と声をかけると、振り向く回数多々……。眼を輝かせながら「え?」と振り向く若い男の子達が印象的でした……。さすが女医さんパワーです……。と話が脱線致しましたが、来場者の方々のキッカケはなんであれ、診断チャート、処方箋をお渡ししながら、詳しい説明が出来、東京オートサロン 2013 で伝えたかった事「JAF のサービス」の詳しい説明が様々な方に出来たと思います。会員の方も、そうでない方にも、もっと知ってもらいたい、という気持ちを通じたのか……。昨年より150%程の入会・継続の件数を増やす事が出来ました。私は、自分の気持ちを人に伝えようと思っても、言葉足らずだったり、言わなくてもいい事を言ってしまった、自分の気持ちを表現するのが苦手です。言葉でも大変なのに、今回は「イベントの制作・運営を通して、何かを伝える」事。もっとハードルは高いですが、今回東京オートサロン 2013 で関わらせて頂いて、「言いたい事」が「伝わる」事は嬉しい事だなぁと改めて感じさせられました。これからも、業務であるイベント制作・運営はもとより、会話でもちゃんと「伝えたい事」が伝わる様に、努力していきたいと思ひます。



▲ビッグサイズの診断チャートと両手に女医さん

営業本部 第2プロジェクト

海外関連プロジェクトのワークコンセプト

日時：2011年～
会場：国内・国外会場多数
種類：制作・運営

Associate Producer
広川 映里夏



▶ The Three C's : Communication, Cooperation, Collaboration

海外のお客様や、また海外でのイベントを希望される日本のお客様などのプロジェクトを行う際、一番重要な業務が英語でのやり取りとなりますが、二つの国（日本と外国）の独自のビジネスカルチャーを考えながら業務を進めていく事がポイントとなります。

海外 / 国内問わず、通常プロジェクトを実行するときにはある自己流の方程式を常に頭におきながら作業を進めます。Communication(情報の共有)、Cooperation(協力し合う)、Collaboration(知識 / 技術の一体化)の3ワードです。特に海外クライアントや協力会社と一緒に仕事をするときはこの3つの「C」をより強く意識します。

*Communication : 面識がない、初めて一緒に仕事をする相手であればなおさら重要なポイントとなります。外国人の場合はメールだけではなく、電話で実際に話し、相手の事を少しでも知ること、また知ってもらうことから信頼関係が生まれます。「会話」をすることをとても大切に西洋文化では、出来るだけ電話での確認をします。ただし、多少面倒でも、その口頭でお話したことはメール(書面)にて残しておく事も、後の確認のため、必ずします。

*Cooperation : その言葉のとおり、チームメンバーを繋げるツールです。相手ができなく、自分が出来ること、もしくは相手にしかできなく、自分が出来ないこと、お互いの不足している部分を埋めあうプロセスを行います。これも相手とことん話し合い、遠慮なくお願い、また積極的にオファーをするという negotiation(交渉)が必

須です。難しそうなこと、言いにくいことであっても一度話し合ってみる価値はあります。外国人の相手もネゴシエーションするのされるも、それが普通なので、決して失礼にあたることはありません。

*Collaboration : 各チームメンバーのスキルは、合作としてイベントの本番で初めて形になります。このコラボレーションでは、各メンバーの最高のスキルを引き出すことが目標となります。これは海外クライアントだけではなく、国内でも同じ事が言えるのではないのでしょうか？

この Three C's を考えながら、これからも色々な国からのお客様や現地業者と国際色豊かなプロジェクトを作り上げて行きたいと思ひます。



昨年オーストラリアにて、現地の業者との共同オペレーション。担当者とも仲良くなり、今も繋がっています！

営業本部 第3プロジェクト

2年生になりました！

▶ 失敗は出来るうちにする

前職の不動産営業より現在のエディープロジェクトに移り、はや1年が経ちました。この1年の間、多くの失敗を積み重ねてきましたが、そんな失敗から学んだことも多くありました。

■わからないことへの好奇心
わたしが入社して3ヵ月ほど経つ頃、とある展示会に全体管理・運営として参加する機会がありました。その展示会の設営時、作業状況を確認するために各ブースを回っていると、「すみません！ベルクロ30もらえますか？」と、お客様に相談された際、頭には「？マーク」が出ているのに、口から出た言葉は「わかりました!」。その時は、知らない言葉を出された焦りと、ベルクロを知らないとは言えないくらいお客様が当たり前のように「ベルクロ」と使っていたので、「ベルクロって何ですか?」とは言えず、知ったかぶりをしてしまいました。(笑)「ベルクロ」をきっかけに、わからないことはメモを取り、自分で調べることの癖づけをし、出来る限り解消していたおかげで、知らなかった知識を、この1年間でかなり増やすことができたと思ひます。知識が増えたことで、お客様や協力会社と話をすることに以前よりも積極的にもなりました。今でも、まだまだおぼつかない知識ではありますが、お客様や協力会社様などと積極的に会話を重ね、よりよい体制作りを探しながら、付加価値を1つでも多く提供できるよう邁進していきます。

■管理するとは
ベルクロを「知ったか」してしまった展示会の撤去の時です。上司から「うちの台車どこにある?」と言われ、「確か・・・わかりません」結局、台車を探しに行くことに・・・探している最中もシーバーから指示が飛んできて、当たり前ですが、他のことをやらなくてはいけなかったり。どれくらい探したでしょう?結局、自力では見つけれず、撤去が終わるころに上司が見つけていました。広い展示会場で探し回るのはもうこりごりですので、それ以降、現場での備品管理(特に台車ははずせません!)は徹底して行うようになりました。今ではどの備品がどこで使用されているのか、どのように動いているのかなど、自然と全体を把握してないとなんか落ち着かない性格になりました。備品以外でもそうですが、「管理をする」というのは全体が見えていないとできません。全体が見えている人には自然と人や仕事の依頼が集まっているような気がします。今後も、失敗を失敗で終わらせず、失敗から学び、同じことを繰り返さないこと。さらには付加価値もつけられるくらいの仕事人を目指し、皆様のご協力を賜りながら、自分磨きをしていきます。

Assistant Director
黒川 和紀



営業本部 第4プロジェクト

デュアルライフ

▶ プロデューサーの悩み。2013

Producer
橋元 大輔



最近気になることを書きます。入社以来色々なことがあり、たまたま地方に行くことが多く、ひところは月に2回は(私用)新幹線に乗って色々な所へ行ってきました。首都圏は、3,000万人の人口を抱える世界最大の都市圏、一極集中と言われて久しいですが、裏を返せば残りの9,000万人は首都圏以外のところに住み、まだまだ独自の文化を残しつつ、首都圏とは違う時間が流れています。私は、兵庫県生まれの大阪育ち...ということもありますが、どうも東京(練馬と神保町の往復)にいと、息苦しさを感じます。きっと私だけではないと思ひます。

デュアルライフの原点?とも言える「郊外」の概念が日本でできたのは、阪急の小林一三が作り上げた阪急宝塚線を中心としたエリア、首都圏では東急の五島慶太が作った田園調布や多摩田園都市が例となると思ひますが、これらの始まりは遅くとも今から50年前以上のこと。きっとこのころから「抜け出したい」人々がいたんだと推測されます。そして現在、都心には高層マンションが立ち並び、職場と居住エリアが近いことが理想とされる傾向もありますが、それと同時に、その反対の概念?「デュアルライフ」も深化化して...インフラ、組織規模がものをいう時代では無くなり、ソフト化社会と言われて久しい現代、それを生み出す環境をいかに自分で作るか(そのようにところに身を置くか)環境を作れない人は残れないと言っても過言ではない厳しい今、住環境を中心とした生活環境を模索する、僕もそのひとりになっています。ネックは通勤であることは言うまでもありませんが、仕事以外の時間価値を高め、それをいかに仕事にフィードバックできるか。結局日々の努力なんです、その場所と時間の使い方で問われる時代になってきたんだと実感しています。常に、クライアント様にとって最良の提案を続けるため、自己の充実を図るため、悩みはつづきます。



阪急電車
大阪・梅田駅

鉄道マニア橋元大輔の
今月の駅

日本私鉄最大のターミナル駅。頭端式(行止り)の線路が並ぶ姿は、相互乗り入れが当たり前時代に、旅の始まりの雰囲気漂う貴重な駅と言えるでしょう。今年3月には東横線渋谷駅が地下化され、行止りのターミナルがまたひとつ無くなりますが、鉄道が本来持つ魅力「乗ることの価値」をなんとなく感じさせてくれる。京都へ・宝塚へ・神戸へ、さあどこへいきましようか?

海は広い大きいな! ※イメージ

詩ちゃんの30分クッキング

はーとのプチマドレーヌ(♡V♡)

4

Producer
宮崎 詩子

1. れもんはすり下ろしておき、ココアは熱湯大さじ1で練り合わせておく。薄力粉はベーキングパウダーと2、3回ふり合わせておく。

2. 室温のバターにはちみつとグラニュー糖を加え、ミキサーで混ぜる。空気が入るように混ぜたら、ボール半分に押し替え、一つにはレモンの皮のすり下ろしたものとバニラオイル、もう一つには液状になったココアとブランデーを入れる。

3. 常温のたまごを溶きほぐし、それぞれのボールに、半分づつ入れる。なめらかな状態になったら、さらにふるった1の薄力粉プラスベーキングパウダーを半分づつ入れて、ゴムべらで混ぜる。

4. しぼり出し袋(100均のビニールが便利)に生地を入れ、180°Cのオープンに熱を入れて、温まるまで袋のまま少し休ませる。

5. 絞り入れたら、トントンとならしてオープンへ。

6. 15分くらいで焼きあがります! 型からぽこぽこ、熱いうちに抜いてください。2色のハートとっても可愛らしいです。

☆ポイント☆
シリコンは、ホコリがくっつきやすいので、タオルではなく、キッチンペーパーで水気をふき取る◎。

『ingredints』

たまご	2個
グラニュー糖	90g
はちみつ	10g
バニラオイル	適宜
薄力粉	50g
ベーキングパウダー	小さじ1/2
無塩バター	100g
(チョコ味に) 純正ココア	40g
ブランデー	適宜
(プレーンに) レモンの皮	1/2個
バニラオイル	適宜

営業本部 第5プロジェクト

季節の歳時記

▶ 2月の主な行事をお届けいたします。

寒さの峠が訪れる頃ですが、立春を迎え、暦の上では春となります。咲き始める花々、バレンタインデーなど春の予感が広がる今日この頃。今回は2月の行事をご紹介します。



■節分【2月3日】
各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のこと。『季節を分ける』ことを意味している。江戸時代以降に立春の前日を指す場合が多くなった。季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられており、それを追い払うための悪霊払い行事が執り行われる。豆撒きが行われるようになったのは室町時代以降とされ、寺社が邪気払いに行った豆打ちの儀式を起源とした行事である。



■年始め【2月8日】

2月8日は春が来て暖かくなり、農作業が始まり、そして人間の1年の営みが始まるとされる「事始め」の日。12月8日とする地域もあるが、この違いは始める「事」の違いによる(12月8日は年越しの「神事」を、2月8日は前述の通り日常の営み始める日)。この2つの日をまとめて「事の八日」という。この「事の八日」には大根や人参、里芋や蒟蒻、牛蒡に小豆といった作物を入れたお事汁という味噌汁を作って食べる風習がある。



■建国記念の日【2月11日】

日本の起源を祝日にしようという動きは、神武天皇(初代天皇)即位の初日を日本の紀元(歴史が始まる最初の日)としたことから始まる。この日本紀元の日を「紀元節」という。紀元節は全国の神社で祭事が催されていたほか、庶民の間でも祭典が行われていた。戦後になると占領軍の意向により紀元節は廃止となるが、その後も紀元節の復活を望む声は多かった。その結果、1966年に名称を変え、「建国記念の日」に関する提案が承認され、翌1967年から適用されることになった。



ちなみに⇒太陽を象った旗を用いるようになったのは、645年の大化の改新以後!!!しかし、1999年に国旗及び国歌に関する法律(国旗国歌法)が公布されるまでは、正式に国旗として定められてはいませんでした。。。。



Assistant Director
浦山 善明

